

IV 調査結果の要約

IV 調査結果の要約

1. 市民活動について

●市民活動に関する講座で興味があるもの（問7）

市民活動に関する講座で興味があるものをたずねた。「受けない講座はない」が60.3%と6割を超え、次いで「効果的な広報（SNS・チラシなど）の方法を学ぶ講座」が11.8%、「市民活動を始めるにあたっての基礎知識を学ぶ講座」が10.7%の順となっている。

●「ふれあい東大阪」の閲読頻度（問8）

「ふれあい東大阪」の閲読頻度をたずねた。「目につけば読むことが多い」が26.9%と最も高く、次いで「知らない」が24.6%、「過去に読んだことがある」が16.9%の順となっている。

●「ふれあい東大阪」の発行スタイル（問9）

「ふれあい東大阪」の発行スタイルをたずねた。「各戸へ配布する」が46.3%と最も高く、次いで「特になし」が22.9%、「生活に身近な場所に配架する」が21.0%の順となっている。

●「東大阪市民ふれあい祭り」に希望すること（問10）

「東大阪市民ふれあい祭り」に希望することをたずねた。「飲食店ブースの出店」が36.8%と最も高く、次いで「バザー・フリーマーケットの出店」が36.4%、「前夜祭の花火大会・音頭ステージの開催」が35.8%の順となっている。

2. 環境分野の満足度について

●「東大阪市環境基本計画」の認知度（問11）

「東大阪市環境基本計画」の認知度をたずねた。「知らない」が73.5%と7割を超えており、次いで「計画があることは知っているが、読んだことはない」が20.3%、「計画を知っており、読んだことがある」が4.9%となっている。

●「2050年温室効果ガス排出実質ゼロ（ゼロカーボンシティ）」の認知度（問12）

「2050年温室効果ガス排出実質ゼロ（ゼロカーボンシティ）」の認知度をたずねた。「知らない」が54.9%と最も高く、次いで「内容を知っているが、東大阪市が表明したことは知らない」が39.0%、「内容を知っており、東大阪市が表明したことも知っている」が4.7%となっている。

●省エネルギーや再生可能エネルギー導入の取組（問13）

省エネルギーや再生可能エネルギー導入の取組をたずねた。「わからない」が36.9%と最も高く、次いで「そう感じない」が28.1%、「どちらかといえばそう感じない」が20.4%の順となっている。

●東大阪市の空気や水に対する満足度（問14）

東大阪市の空気や水に対する満足度をたずねた。「どちらかといえばそう感じる」が32.5%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう感じない」が21.9%、「そう感じない」が21.0%の順となっている。

●身近な都市環境に対する満足度（問15）

身近な都市環境に対する満足度をたずねた。「どちらかといえばそう感じる」が39.2%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう感じない」が21.8%、「そう感じない」が15.6%の順となっている。

3. 東大阪市第3次総合計画について

●第3次総合計画の成果指標に対する満足度（問16）

第3次総合計画の成果指標に対する満足度をたずねた。「とてもそう思う」と「そう思う」と「まあそう思う」の合計は「東大阪市にずっと住み続けたいですか。」で63.1%と6割強となっており、次いで「住宅・住環境に対し満足していますか。」が48.9%、「危機や災害に強く安心して暮らせるまちであると思いますか。」が47.7%となっている。

4. タバコ、受動喫煙対策について

●喫煙の状況（問17）

喫煙の状況をたずねた。「吸っていない」が62.6%と最も高く、次いで「以前吸っていたがやめた」が20.7%、「吸っている」が16.4%となっている。

●受動喫煙防止対策として望むこと（問18）

受動喫煙防止対策として望むことをたずねた。「屋外分煙所の設置」が52.9%と最も高く、次いで「受動喫煙についての啓発・周知」が39.3%、「学校での防煙教育の充実」が34.0%の順となっている。

●屋外分煙所の設置の必要性（問19）

屋外分煙所の設置の必要性をたずねた。「設置が必要」が35.1%と最も高く、次いで「どちらかと言えば設置が必要」が31.6%、「設置は不要」が14.7%の順となっている。

●屋外分煙所の設置で良くなると思うこと（問 20）

屋外分煙所の設置で良くなると思うことをたずねた。「ポイ捨てが減る」が 56.0%と最も高く、次いで「歩きタバコが減る」が 54.0%、「受動喫煙を防ぐことができる」が 39.7%の順となっている。

●屋外分煙所の設置で気になること（問 21）

屋外分煙所の設置で気になることをたずねた。「時間を問わず、不特定多数が集まる」が 47.6%と最も高く、次いで「設置・維持管理のための経費がかかる」が 39.8%、「煙が気になる」が 39.4%の順となっている。

5. 東大阪市の木造住宅の耐震改修などについて

●旧耐震基準の建物の認知度（問 22）

旧耐震基準の建物の認知度をたずねた。「知っている」が 57.5%、「知らない」が 40.8%となっている。

●耐震改修などに伴う補助金制度の認知度（問 23）

耐震改修などに伴う補助金制度の認知度をたずねた。「知らない」が 74.1%、「知っている」が 23.8%となっている。

●耐震改修などに伴う補助金制度の周知経路（問 23-1）

問 23 で「知っている」人を対象に、耐震改修などに伴う補助金制度の周知経路をたずねた。「市政だより」が 80.4%と最も高く、次いで「知人などから聞いて」が 14.8%、「市ウェブサイト」が 7.9%の順となっている。

●東大阪市の耐震に関する施策として必要なこと（問 24）

東大阪市の耐震に関する施策として必要なことをたずねた。「耐震改修補助金制度における手続の簡素化」が 43.3%と最も高く、次いで「相談窓口の充実」が 41.8%、「屋根瓦・外壁・天井などの落下防止などに関する支援」が 41.5%の順となっている。

●希望する耐震改修に伴う工事費用の自己負担額（問 25）

希望する耐震改修に伴う工事費用の自己負担額をたずねた。「わからない」が 44.3%と最も高く、次いで「100万円」が 22.2%、「150万円」が 12.0%の順となっている。

6. 識字について

●読み書きができる程度（問 26）

読み書きができる程度をたずねた。「不自由なく読んだり書いたりできる」が 88.5%と 8割を超えて最も高く、次いで「『かな』と少しの『漢字』なら、読んだり書いたりできる」が 7.1%、「まったく読んだり書いたりできない」が 2.4%の順となっている。

●読み書きに不自由されている方を知っているか（問 27）

読み書きに不自由されている方を知っているかをたずねた。「知らない」が 89.0%、

「知っている」が 8.5%となっている。「知っている」人を対象とした読み書きに不自由されている方は、「家族・親戚」が 36.3%、「その他」が 35.4%となっている。

●読み書きに不自由されている方の識字の程度（問 27-1）

問 27 で「知っている」人を対象に、読み書きに不自由されている方の識字の程度をたずねた。「簡単な読み書きはできるが、日常生活（市役所などの窓口で届出をするときなど）をしていくうえで不自由している」が 45.1%と最も高く、次いで「簡単な読み書きはできるが、社会参加（学習会などへの参加など）をしていくうえで不自由している」が 32.7%、「簡単な文字の読み書きができない」が 23.9%の順となっている。

●識字問題に対して、市が取り組むべきこと（問 28）

識字問題に対して、市が取り組むべきことをたずねた。「読み書きを学ぶ教室を充実すること」が 66.0%と最も高く、次いで「市役所の案内板・届出書・パンフレットなどにふりがなをつけること」が 42.8%、「社会参加を促進するための多様な学習機会（パソコン教室など）を充実すること」が 35.6%の順となっている。

●識字問題への取組の充実度・重要度（問 29）

識字問題への取組の充実度・重要度をたずねた。充実度についてみると、「充実している」と「やや充実している」の合計は「市政だより・チラシ・ポスターなどのふりがな、外国語表記や絵文字による案内表示」が 18.5%と最も高く、次いで「市政だより・市ウェブサイトなどを通じた識字情報の提供・発信」が 10.8%、「『識字学級』『よみかき教室』『日本語教室』などによる識字学習機会の提供」が 8.0%の順となっている。

重要度についてみると、「重要である」と「やや重要である」の合計は「点字や手話など識字学習機会の提供」が 61.5%と最も高く、次いで「市政だより・チラシ・ポスターなどのふりがな、外国語表記や絵文字による案内表示」が 61.0%、「『識字学級』『よみかき教室』『日本語教室』などによる識字学習機会の提供」が 60.3%の順となっている。